

調査委員会における調査研究報告書

教科名（図画工作科）

No. 1

調査研究の観点	所 見	
	発行者（開隆堂） 発行者番号（9）	発行者（日本文教出版） 発行者番号（116）
1 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の見開きには写真ですべての題材の作品が載っており、1年間の活動の見通しがもてる。 ○ 各学年の題材とは別に「ひらめきコーナー」を設け、気軽に表現することの楽しさに気付かせたり、他教科との関連を図って自由に活用したりできる内容になっている。 ○ 児童の掲載作品が多様なことから、題材に対するアプローチの仕方や材料が多様である。 ○ 巻末に基礎的・基本的事項の扱いを8ページにわたって掲載しており、大きく分かりやすいイラストと製作過程を分けたくわしい写真、安全に配慮された内容になっており、確実に習得できるように示している。 ○ 資質・能力に関わる三つの目標に対応したキャラクターを設定し、児童が活動する写真とキャラクターのコメントで児童が目標のどの姿にあたるのかが分かるようになっている。 ○ プログラミング教育の一環として、コンピューターでできることを例示し、情報モラルにも配慮した内容になっている。 ○ 高学年の造形遊びは、児童がどのような思いで製作し、この作品になったのかというプロセスが写真と吹き出しを用いて記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の見開きには国内外のアーティスト作品と児童作品が共存しながら、図画工作科で大切な造形的な見方・考え方を示している。 ○ 各学年の題材とは別に「図工のつながり ひろがり」を設け、地域や伝統文化に携わる人、アーティストの考えが掲載されており先哲の考え方を手掛かりに考えることを促す工夫がされている。 ○ 児童の掲載作品には、支持体の種類や大きさ、形、素材が多様なこと、作品のコメントや製作過程のワークシートが掲載されており、児童の発想を広げ、構想を深めるヒントとなっている。 ○ 巻頭のオリエンテーションには学習のめあてだけでなく、保護者へのメッセージが記載されており、社会との連携を意識するようになっている。 ○ 題材名のすぐ横に資質・能力に関わる三つの目標が目立つように記載されている。 ○ プログラミング教育の一環として、コンピューターの仕組みをもとに思い付く活動や、手順や組み合わせを論理的に考える場面が設定されている。また、情報モラルにも配慮した内容になっている。 ○ 主に造形遊びでは、一つの題材で「屋内/屋外」のように複数の実践パターンを示している。
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年から高学年まで、それぞれの分野の系統性が一貫して、バランスよく掲載されている。 ○ 児童の見本作品や活動の様子が多く掲載されている。 ○ 分野別の題材数をみると、絵に表す活動・工作に表す活動・鑑賞活動が多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年から高学年まで、それぞれの分野の系統性が、各学年の発達段階に応じてバランスよく配置されている。 ○ 児童の見本作品や活動の様子が多く掲載されている。 ○ 分野別の題材数をみると、造形遊び・立体に表す活動が多く掲載されている。
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材名のとなりに使用する材料・用具が示されている。 ○ 対話的な学習の例が写真で示されている。 ○ 安全や片付けについて文章と写真で示されている。 ○ 児童の活動の写真などが一つ一つ大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材名のほかに、題材の概要や学習する技法が写真で示されている。 ○ 対話的な学習の例が写真で示されている。 ○ 安全や片付けについて文章で示されている。 ○ 児童の活動の写真などが一つ一つ大きい。
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材のリード文がある。 ○ 巻末に材料や道具の使い方を説明したページがある。 ○ 各単元のはじめに、「学習のめあて」と記載されてある。 ○ 見開きには、年間で行う作品の紹介がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材のリード文がある。 ○ 巻末に材料や道具の使い方を説明したページがある。 ○ 各単元のはじめに、学習のめあてが板書のようにになっている。 ○ 見開きには、身近な自然にはどのような色があるのか、どんな感じ方ができるのかなど様々な色の良さを伝える作品等を紹介している。